



# VAULT®

## 管理者ガイド

VVAULT は、ストレージの仮想化を手軽に実現するソフトウェアです。

Windows OS 上にマウント可能なすべてのストレージを一つに統合して大容量の仮想ストレージを構築することができます。また、ライブ・バックアップ、ライブ・リカバリ機能を設定することにより、冗長性の高いストレージを構築できます。

本書では、VVAULT の設定方法について説明しています。

詳しい使用方法については、オンラインマニュアルをご覧ください。

### オンラインマニュアルの利用方法

以下の URL へアクセスいただくことでオンラインマニュアルが参照できます。

<http://vvault.jp/manual/>

# もくじ

<b>カスタマーズ・スクエアへ登録する</b> .....	<b>3</b>
<b>VVAULT をインストールする</b> .....	<b>5</b>
<b>ライセンスを登録 / 更新する</b> .....	<b>8</b>
インターネットに接続できる場合 .....	10
インターネットに接続できない場合 .....	12
ライセンスを更新する .....	16
<b>VVAULT を使ってみる</b> .....	<b>17</b>
ストレージを追加する .....	17
仮想ドライブをマウントする .....	19
<b>ライブバックアップの設定をする</b> .....	<b>20</b>
ライブバックアップを設定する .....	20
ライブラカバリについて .....	24
「Biz シンプルディスク バックアップタイプ」にバックアップする .....	26
<b>バックアップサーバ機能を設定する</b> .....	<b>28</b>
バックアップサーバー側を設定する .....	28
バックアップクライアント側を設定する .....	33
<b>構成ドライブを取り外す場合</b> .....	<b>35</b>
<b>古い NAS からデータを移行する</b> .....	<b>37</b>
NAS を仮想ドライブに組み入れる .....	37
NAS の取り外しをおこなう .....	39
<b>アップデートする</b> .....	<b>40</b>
<b>メール設定をする</b> .....	<b>41</b>
<b>メッセージ一覧</b> .....	<b>42</b>
<b>送信メール一覧</b> .....	<b>46</b>
<b>アフターサービス</b> .....	<b>50</b>

# カスタマーズ・スクエアへ登録する

VVAULT Professional OEM をアクティベート (有効化) するためには、「VVAULT カスタマーズ・スクエアへの登録」が必要です。

カスタマーズ・スクエアでは、VVAULT についてのフォーラムやナレッジベースによる技術情報の参照、登録済ライセンス情報、最新ソフトウェアなど VVAULT に関する情報がたくさん登録されています。

登録することにより、有償版でしか得られない情報を参照できます。

## ご注意

カスタマーズ・スクエアをご利用いただく前に以下で規約をご確認ください。

[https://wvault.jp/customers/index.php?func=user\\_terms\\_of\\_use](https://wvault.jp/customers/index.php?func=user_terms_of_use)

カスタマーズ・スクエアへの登録には、有効なメールアドレスが必要です。

※メールアドレス以外の個人情報は不要です。

VVAULT Professional OEM のライセンスはインストール先の対象機種個別の情報に結び付けられます。いったん登録したライセンス情報を他の機種へ移すことはできません。

カスタマーズ・スクエアは無料で登録、ご利用いただけます。

登録前にパスワードをご用意ください。パスワードは 6 文字以上でアルファベットと数字の混在文字列が必要です

1 インターネットに接続できるパソコンから、以下の Web ページにアクセスします。

<https://wvault.jp/customers/>

2 [無料ユーザ登録はこちら] ボタンをクリックします。

## VVAULT® CUSTOMERS SQUARE

カスタマーズ・スクエアのサービス

- フォーラム**  
登録ユーザ様同士で質問や情報交換ができるフォーラムサービスです。
- ナレッジベース**  
技術情報やノウハウなど製品活用に関する情報をご紹介します。
- 製品アーカイブ**  
これまでリリースされた全てのバージョンをご利用いただけます。
- ライセンスのご購入**  
検索可能なストレージ数を無制限にする有料ライセンスをご購入いただけます。
- ライセンス管理**  
ご購入いただいたライセンスの状態確認や管理機能をご提供いたします。
- テクニカルサポート**  
お客様固有の問題が発生した場合には当社に直接お問い合わせいただけます。

ログイン

Email

Password

パスワードをお忘れの方

クリック

- 3**
- ①メールアドレス、パスワード欄に用意しておいたアドレス、パスワードを入力します。
  - ②文字認証欄には、崩れて表示されている画像を読み取って入力します。  
※うまく読み取れない場合は[別の画像を表示]をクリックしてください。
  - ③すべて入力したら、[上記の内容で登録する]ボタンをクリックします。  
→登録受付が完了したら、「登録受付完了」画面が表示されます。

#### ユーザ登録申請

入力されたメールアドレス宛に仮登録のお知らせと本登録へのURLをご連絡いたします。  
尚、登録フォームの送信をもって利用規約及び、個人情報保護方針に同意されたこととさせていただきます。

入力されるメールアドレスに受信制限を設定されている場合、  
事前に@vvault.jpドメインからの受信を許可するように変更をお願いいたします。

The screenshot shows the registration form with three callouts:
 

- ①入力**: Points to the password field with the text "※6文字以上32文字以下の英数字混在文字で入力してください。"
- ②入力**: Points to the CAPTCHA field where the user has entered "8kvp9".
- ③クリック**: Points to the "上記の内容で登録する" (Register with the above information) button.

- 4**
- しばらくすると、登録したメールアドレス宛にて確認メールが届きますので、記載されているリンクをクリックします。  
→ユーザー登録完了画面が表示されます。

The screenshot shows an email titled "VVAULT カスタマーズ・スクエア ユーザー仮登録のご確認". The body text includes:
 

- To: 自分
- 本メールは、VVAULT カスタマーズ・スクエアからのお知らせです。
- この度はユーザー登録をいただきありがとうございます。
- お客様のユーザー情報は現在仮登録となっております。ユーザー登録を完了するために、以下URLのクリックをお願いいたします。  
[https://vvault.jp/customers/index.php?func=user\\_cfm\\_act&id=](https://vvault.jp/customers/index.php?func=user_cfm_act&id=)
- ※本メールに心当たりのない方は、お手数ですが削除をお願いいたします。また、本メールは送信専用メールアドレスから配信されておりますので、ご返信いただいてもお答えできません。予めご了承ください。
- その他ご質問についてはVVAULT カスタマーズ・スクエアをご利用ください。  
<https://vvault.jp/customers/>

 A callout labeled **クリック** points to the registration link.

以上でカスタマーズ・スクエアへの登録は完了です。

# VVAULT をインストールする

ここでは VVAULT をインストールする手順について説明します。

※ HDL-Z シリーズをお買い求めの場合は、すでにインストール済みのモデルがあります。その場合は、【ライセンスを登録 / 更新する】(8 ページ) へお進みください。

※本製品をインストールすると、装置の再起動が必要になる場合がありますので、ご注意ください。

※インストールには管理者権限が必要です。管理者権限を持つユーザーアカウントでログインし、実行してください。

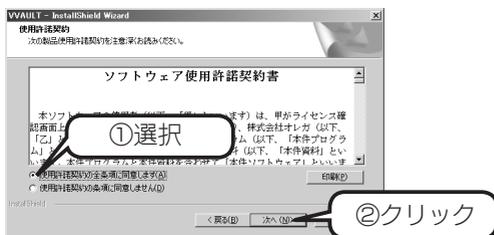
**1** CD-ROM 内の「VVAULT-Setup-x64\_x.x.x.exe」をダブルクリックします。  
インストーラーが起動します。  
※ CD-ROM 内には、64bit OS 向けのみ準備しています。32bit OS 向けが必要な場合は、VVAULT カスタマーズ・スクエアよりダウンロードしてください。(x.x.x部分はバージョンによって変わります。)



**2** [次へ] ボタンをクリックします。

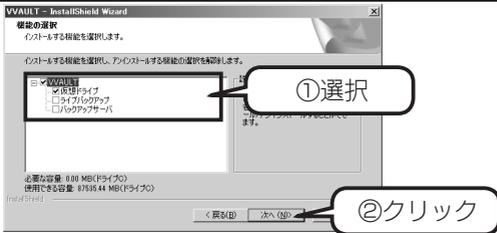


**3** 内容を確認し [使用許諾契約の全条項に同意します] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



[次へ] ボタンをクリックすることにより、お客様は本ソフトウェア使用許諾契約書に同意されたものとみなされます。同意できない条項がある場合は、[キャンセル] ボタンをクリックし、インストールを中止してください。また本書末尾にも使用許諾契約書が記載されています。印刷物で確認したい場合はこちらでご確認ください。

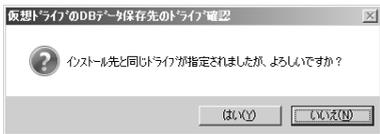
**4** インストール内容を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。  
 ライブバックアップ機能、バックアップサーバ機能を後から設定する場合は [ライブバックアップ]、[バックアップサーバ] のチェックを外してください。  
 すでにライブバックアップに利用可能なドライブが接続されている場合は、[ライブバックアップ] をチェックします。  
 ※ライブバックアップ機能、バックアップサーバ機能は後から設定することも可能です。  
 詳しくは【ライブバックアップの設定をする】(20 ページ)、【バックアップサーバ機能を設定する】(28 ページ)をご覧ください。



**5** インストール先を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。  
 ※デフォルトでは「C: ¥Program Files ¥VVAULT」にインストールします。  
 ※VVAULT は、ファイルをデータベース管理します。インストール先にデータベースを構築しますので、インストール先ドライブに十分な空き容量が必要です。



**6** 仮想ドライブ用のデータベース保存先を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。  
 ※容量が小さいと、保存可能なファイル数に制約が出る場合があります。目安として、30G バイト以上の空き容量が確保可能なドライブを選択してください。



プログラムのインストール先と同じドライブを選択した場合、左の画面が表示されますので、問題なければ、[はい] ボタンをクリックします。

7 [インストール] ボタンをクリックします。  
→インストールを開始します。



8 以下の画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。  
※ VVAULT を構成する重要なドライバソフトです。必ずインストールしてください。



9 完了メッセージが表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。



10 再起動を促すメッセージが表示された場合は、[はい、今すぐコンピューターを再起動します] を選択して、[完了] ボタンをクリックします。



以上でインストールは完了です。

# ライセンスを登録 / 更新する

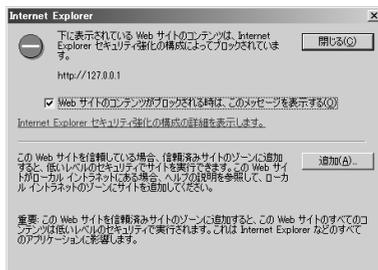
## ご注意

●初めてアクセスする場合、[ 信頼済みサイトへの登録確認 ] 画面が表示される場合があります。この場合は以下のサイトについて、[ 追加 ] ボタンをクリックし、信頼済みサイトへ登録してください。信頼済みサイトに設定しないと、一部機能が利用できなくなります。

・信頼済みサイトへの追加サイト

`https://127.0.0.1/`

`about:blank`



## ご注意

●登録したライセンスが失効すると、仮想ストレージへの保存ができなくなり、読み込み専用となりますのでご注意ください。失効前に有効期限の警告メールが送信されますので、あらかじめメール設定しておくことをおすすめします。メール設定については、【メール設定をする】(41 ページ) をご覧ください。

●ライセンス登録は、VVAULT が動作する NAS のみ設定が必要です。VVAULT の構成ドライブとして動作する NAS でのライセンス登録は必要ありません。

●ライセンス登録前は「VVAULT Basic」として機能します。Basic ライセンスは、増設ドライブ数、クラウドバックアップ機能に制約があります。

●VVAULT Professional OEM ライセンスは、当社 HDL-Z シリーズにインストール済みで出荷される専用のライセンスです。そのため、他 NAS やサーバーへの転用はできませんのでご注意ください。

1 設定する NAS にリモートデスクトップ接続し、[スタート] → [すべてのプログラム] → [VVAULT] → [Administration] をクリックします。

2 ログイン画面が表示された場合、以下を入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。

アカウント名	Administrator
パスワード	(Administrator のパスワード) ※ HDL-Z シリーズの場合、初期 パスワードは「admin」です。



3 [システム設定] タブをクリックし、左側のツリーメニューから [ライセンス] をクリックします。ライセンス画面が表示されますので、右上の [ライセンス登録] ボタンをクリックします。



次に以下の該当するページへお進みください。

- インターネットに接続できる場合、次ページ
- インターネットに接続できない場合、12 ページ



4 登録内容を確認し、問題がなければ[登録]ボタンをクリックします。



5 登録が完了すると以下のメッセージが表示されますので、[閉じる]ボタンをクリックします。



6 ライセンス情報が更新されますので、内容を確認します。



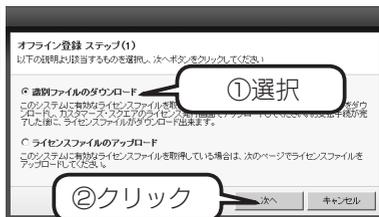
以上でライセンス登録は完了です。

# インターネットに接続できない場合

1 [オフライン]を選択し、[次へ]ボタンを押します。



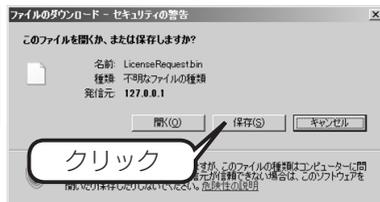
2 [識別ファイルのダウンロード]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



3 [ライセンスコード]に、同梱のライセンス証書に記載されているライセンスコードを入力し、[識別ファイル生成]ボタンをクリックします。



4 [保存]ボタンをクリックし、識別ファイルを保存し、オフライン登録のダイアログを閉じます。



5 インターネットに接続可能なパソコンへ識別ファイルをコピーします。

6 手順5のパソコンで、VVAULT カスタマーズ・スクエア (https://vvault.jp/customers/) へアクセスします。  
ログイン項目に登録したメールアドレスとパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。

**VVAULT** CUSTOMERS SQUARE



7 [オフライン登録] ボタンをクリックします。



8 [参照] ボタンをクリックし、手順4で保存した識別ファイルを指定し、[決定] ボタンをクリックします。



9 アクティベート内容を確認し、[決定] ボタンをクリックします。

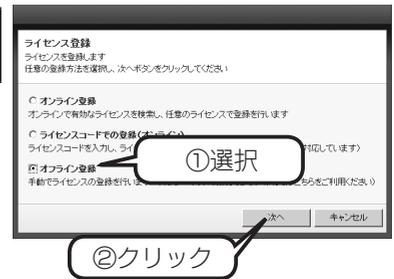


10 [ダウンロード] ボタンをクリックし、ライセンスファイルを保存します。保存したら、[ログアウト]するか、Web ブラウザーを閉じます。



11 再び、ライセンス登録する対象機にて VVAULT Administration 画面を表示します。(5 ページの手順 1 ~ 3 参照)

12 [オフライン] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



13 [ライセンスファイルのアップロード] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



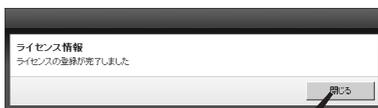
14 [参照] ボタンをクリックし、手順 10 で保存したライセンスファイルを指定し、[登録] ボタンをクリックします。



15 [OK] ボタンをクリックします。



16 [閉じる] ボタンをクリックします。



17 ライセンス設定の表示内容が更新されたことを確認します。



以上でライセンス登録は完了です。

## ライセンスを更新する

VVAULT Professional OEM は、登録したライセンスに利用期限が設定されています。

利用期限が経過すると、仮想ストレージへの保存ができなくなり、読み込み専用となります。

この場合でも、更新ライセンスをご購入いただき、上記のライセンス登録手順を実施いただくことで再び読み書き可能となります。

更新ライセンスはライセンスが有効な状態においても適用可能で、更新ライセンスに指定されている期間分、利用期限が延長されますので、お早めに更新手続きをお願いします。

更新ライセンスのお求めは、本製品をご購入になられた販売店までご相談ください。お客様が現在ご利用中のライセンスによって、用意するものが異なります。

### VVAULT Professional OEM ライセンスの更新用

VVAULT-OEM-1Y	更新ライセンス (1年)
VVAULT-OEM-2Y	更新ライセンス (2年)
VVAULT-OEM-4Y	更新ライセンス (4年)

※ VVAULT Professional の場合、OEM ライセンスは適用できません。

## ご注意

- ご利用中のライセンスが不明の場合は、VVAULT 管理画面の [システム設定] → [ライセンス] をクリックし、表示されるライセンス情報から「ライセンス名」をご確認ください。



# VVAULT を使ってみる

## ストレージを追加する

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [VVAULT] → [Administration] をクリックします。

2 ログイン画面が表示された場合、以下を入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。

アカウント名	Administrator
パスワード	(Administrator のパスワード) ※ HDL-Z シリーズの場合、初期パスワードは「admin」です。

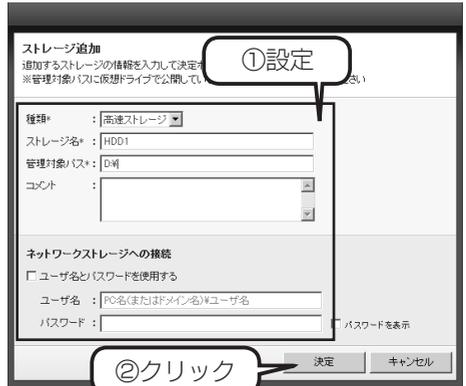


3 [仮想ドライブ] タブをクリックし、ドライブ追加アイコンをクリックします。→ [ストレージ追加] 画面が表示されます。



**4** ストレージ追加の設定をして、[決定] ボタンをクリックします。

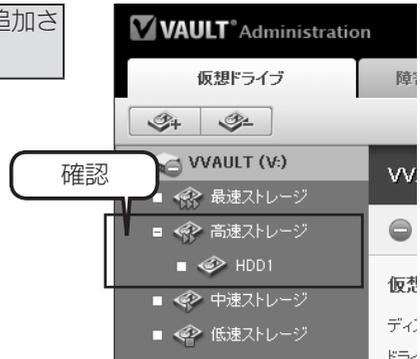
種類	追加するドライブをどのティア（下の【「ティア」とは?】参照）に割り当てるかを指定します。
ストレージ名 管理対象パス	任意のわかりやすい名前を付けます。 実際のドライブやフォルダーを指定します。画面例では、Dドライブ全体を指定しています。 NASを仮想ドライブに追加する場合は、NASのパスを指定します。 例えば、landisk というホスト名のNASにある、disk という共有フォルダーを追加する場合は、「\\¥landisk ¥disk」と入力します。 ※ホスト名の部分は、IP アドレスでも指定できます。
コメント	必要に応じて入力します。
ネットワークストレージへの接続	アクセス先の共有フォルダーにユーザー認証が必要な場合は、[ユーザー名とパスワードを使用する]にチェックし、[ユーザー名]と[パスワード]を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー名 IP アドレスまたはホスト名¥ユーザー名</li> <li>パスワード ユーザーパスワード</li> </ul>



**参考 「ティア」とは?**

● VVAULT ではストレージに「ティア」という優先順位を設定できます。  
ティアには 4 段階あり、ストレージの速度に応じて『最速』、『高速』、『中速』、『低速』が選択できます。VVAULT は書き込み要求があった時に『最速』に優先的に書き込みます。また、ティアリング機能によって、良く使うファイルは『最速』ドライブに、あまり使わないファイルは速度の遅いドライブに自動的に再配置し、効率よいストレージ利用ができるようになります。  
内蔵ドライブや eSATA 接続ハードディスクは最速、USB ストレージは高速～中速、NAS は低速に設定すると良いでしょう。

**5** 選択したティアにハードディスクが追加されたことを確認します。



これでストレージが追加されました。  
次ページへお進みください。

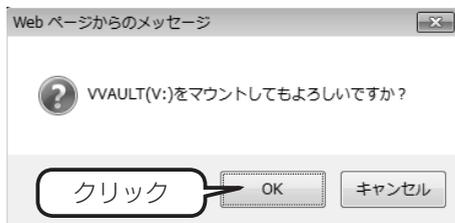
## 仮想ドライブをマウントする

はじめてハードディスクを追加した場合は、この仮想ドライブが使えるように[マウント]を行います。マウントすることにより、仮想ドライブがドライブ V として利用できるようになります。

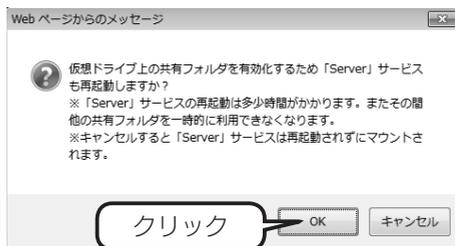
- 1 画面右上の[仮想ドライブボタン]が「Unmount」になっていることを確認し、クリックします。



- 2 [OK] ボタンをクリックします。



- 3 共有サービスが停止しますので、誰も本製品にアクセスしていないことを確認してから、[OK] ボタンをクリックします。



### ご注意

- 本製品上のファイルを編集しているときに [OK] ボタンをクリックすると、編集中のファイルが失われる場合があります。

- 4 マウントが完了すると、アンマウントの警告メッセージと、仮想ドライブ V に表示されていた停止マークが消えます。

これで仮想ドライブ V が利用できます。

仮想ドライブ V 上に共有フォルダを作成すると、仮想ストレージ環境をユーザーが利用できます。

# ライブバックアップの設定をする

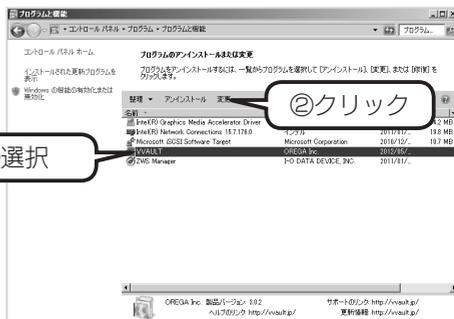
ライブバックアップ機能とは、仮想ドライブを監視し、変更データを自動的にバックアップドライブへ複製する機能です。最新状態のバックアップを意識することなく取ることができます。

あらかじめバックアップ用のハードディスクを接続し、どのドライブが割り当てられているか確認しておきます。以下の例では増設したハードディスクにドライブ E が割り当てられており、このドライブ E をバックアップドライブとして利用する設定方法について説明しています。

## ライブバックアップを設定する

1 対象となる NAS へリモートデスクトップ接続し、[スタート]→[コントロールパネル]→[プログラムのアンインストール]をクリックします。

2 [VVAULT]を選択し、[変更]をクリックします。



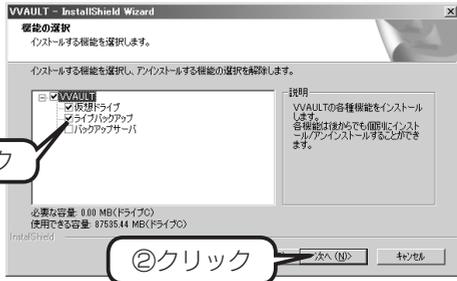
①選択

3 [変更]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



4 [ライブバックアップ]にチェックをつけ、[次へ]ボタンをクリックします。

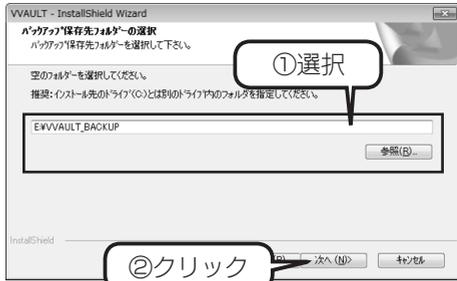
①チェック



②クリック

5 バックアップ保存先フォルダーを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。  
冗長性を高めるため、増設したハードディスクにバックアップ保存先フォルダーが設定されるようになります。  
→設定を開始します。しばらくお待ちください。

①選択



②クリック

6 [次へ]ボタンをクリックします。

クリック



7 バックアップフォルダーの準備をします。  
エクスプローラでバックアップ先のドライブを開き、バックアップ用のフォルダーを作成します。  
例では、ドライブEに新しいフォルダー [backup] を作成しています。

作成



8 [スタート] → [すべてのプログラム] → [VVAULT] → [Administration] をクリックします。

9 ログイン画面が表示された場合、以下を入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。

アカウント名	Administrator
パスワード	(Administrator のパスワード) ※ HDL-Z シリーズの場合、初期パスワードは「admin」です。



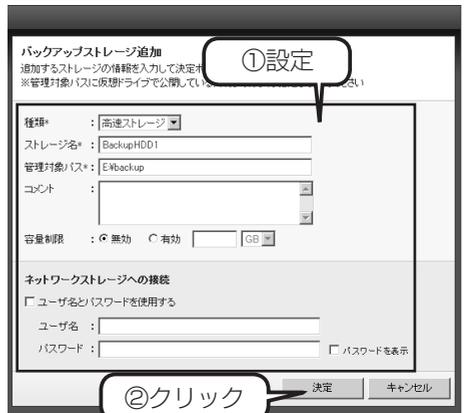
10 ライブバックアップタブをクリックし、[ドライブ追加ボタン] をクリックします。



11 バックアップストレージ追加の設定をして、[決定] ボタンをクリックします。

種類	追加するドライブをどのティアに割り当てるかを指定します。
ストレージ名	任意のわかりやすい名前を付けます。
管理対象パス	手順7で作成したバックアップフォルダを指定します。
コメント	必要に応じて入力します。

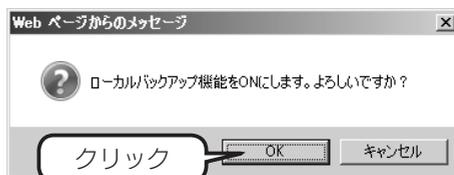
※詳しくは、18 ページの手順4を参照



12 [ローカルバックアップボタン] が OFF になっていることを確認し、[ローカルバックアップボタン] をクリックします。



13 [OK] ボタンをクリックします。



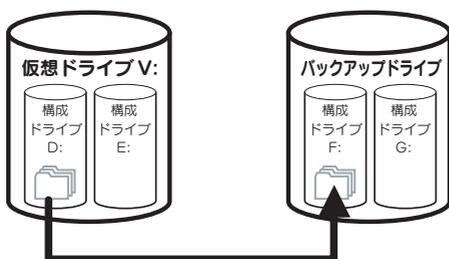
バックアップが開始されると、「バックアップ実行中」と表示されます。  
「バックアップ実行中」と表示されている間は、データのバックアップ中ですので、本製品の電源を切らないでください。

## ライブリカバリについて

ライブリカバリは、ライブバックアップが有効になると自動的に有効になります。仮想ドライブの構成ドライブに障害が発生してアクセスできなくなったとき、ライブリカバリ機能によりバックアップドライブから仮想ドライブへ自動復旧しながらサービスを継続します。

例えば、以下のように仮想ドライブが構成されており、バックアップドライブとして構成ドライブ F:、構成ドライブ G: が設定されているとします。

仮想ドライブ V: に記録されたファイルは、構成ドライブ D: に保存されると同時にライブバックアップ機能によりドライブ F: にも保存されます。



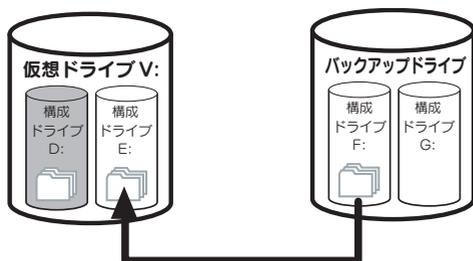
この状態で構成ドライブ D: に障害が発生し、ドライブ D: に保存されていたファイルにアクセスができなくなった時の動作について説明します。



ユーザーが仮想ドライブ V: を通して、障害が発生した構成ドライブ D: に保存されたファイルにアクセスをした場合、VVAULT は構成ドライブ D: にアクセスできないことを検知します。

この時に「ライブバックアップ機能」が働きます。

VVAULT は、バックアップドライブにユーザーからリクエストのあったファイルがないか確認し、ファイルが存在する場合は、そのファイルを他の構成ドライブ（この例ではドライブ E:）に復元します。その後、復元したファイルをユーザーに提供します。



この流れにより、仮想ドライブ V: のサービスを継続しながら、壊れてしまった構成ドライブ D: に保存されていたファイルをリアルタイムに復元することができます。この一連の流れを「ライブリカバリ」と呼びます。

## ご注意

- ライブリカバリ機能では、正常にバックアップがとられていても構成ドライブすべてが壊れている場合には復元できません。（復元保留状態となります。）  
この場合は、いったん構成ドライブを取り外し、新しいドライブを追加構成してください。

## 「Biz シンプルディスク バックアップタイプ」にバックアップする

VVAULT で作成した仮想ドライブ (V:) を、NTT コミュニケーションズ株式会社のクラウドサービス「Biz シンプルディスク バックアップタイプ」にバックアップすることができます。

※「Biz シンプルディスク バックアップタイプ」は、NTT コミュニケーションズ株式会社の提供する有償のクラウドサービスです。

※この機能を利用する場合、ライブバックアップ機能を有効にしておく必要があります。

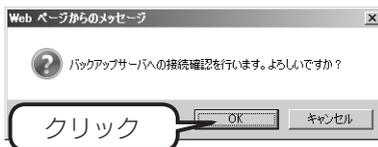
**1** 管理画面の[ライブバックアップ]タブをクリックし、左のメニューから[クラウドバックアップ]をクリックします。



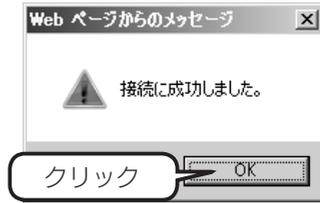
**2** [バックアップサーバ URL]、[パスワード]に、「Biz シンプルディスク バックアップタイプ」の開通案内にある[アドレス]、[パスワード]を入力して、[接続テスト]ボタンをクリックします。



**3** [OK] ボタンをクリックします。  
→接続テストを開始します。



4 「接続に成功しました」と表示されたら、設定情報が正しく入力されています。[OK] ボタンをクリックします。  
※失敗する場合は、再入力し接続テストをお試しください。



5 画面上の [適用] ボタンをクリックします。



6 画面上の [クラウドバックアップ] をクリックして [ON] にします。

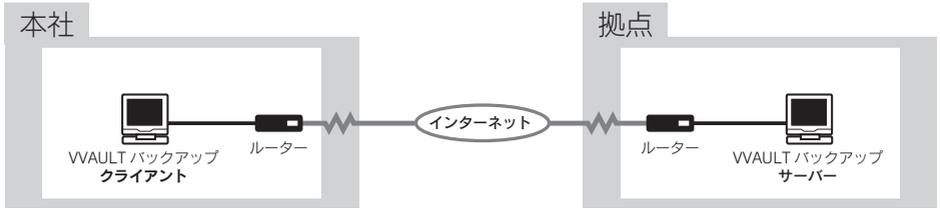


以上で設定は完了です。

**ご注意**  
●クラウドバックアップ機能では、HTTPS ポート（443/TCP）を利用します。そのため、上記機能をご利用になる場合は、HTTPS 通信が利用可能である必要があります。

# バックアップサーバ機能を設定する

ここでは、以下の図のように本社の VVAULT から、インターネットを経由して、拠点の VVAULT にバックアップする方法について説明します。



例では、本社側の VVAULT がバックアップクライアント、拠点側の VVAULT がバックアップサーバとして機能します。

あらかじめ、バックアップサーバ側について以下の設定が必要です。

- ・拠点側のルーターに 443/TCP を VVAULT バックアップサーバへポートフォワードする設定が必要です。

※通信プロトコルは HTTPS (443/TCP) を利用しますが、ポート番号は任意に設定可能です。その場合は、サーバ・クライアント両方でポート番号を合わせてご利用ください。

- ・拠点側のルーターの IP アドレスまたは DNS 名が必要です。

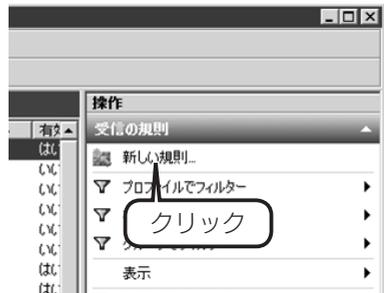
## バックアップサーバ側を設定する

※画面は Windows Server 2008 R2 の例です。

- ・Windows ファイアウォールの設定を変更する

**1** スタートメニューから、[管理ツール] → [セキュリティが強化された Windows ファイアウォール] をクリックします。

**2** 画面右の受信の規則で [新しい規則] をクリックします。



**3** [ポート]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

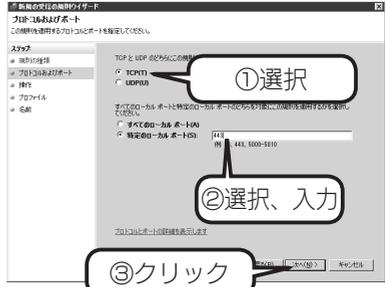
①選択



②クリック

**4** [プロトコルおよびポート]を設定します。  
 ① [TCP]を選択します。  
 ② [特定のローカルポート]を選択し、[443]を入力します。  
 ③ [次へ]ボタンをクリックします。

①選択



②選択、入力

③クリック

**5** [接続を許可する]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

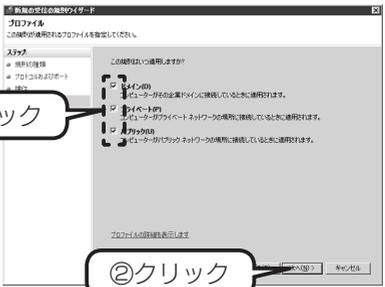
①選択



②クリック

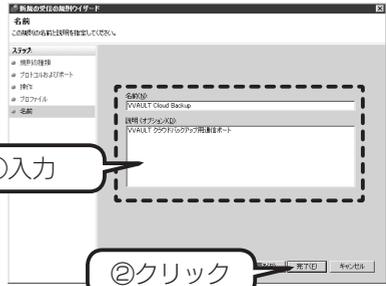
**6** すべてにチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。

①チェック



②クリック

7 分かりやすい[名前]、[説明]を入力し、[完了]ボタンをクリックします。

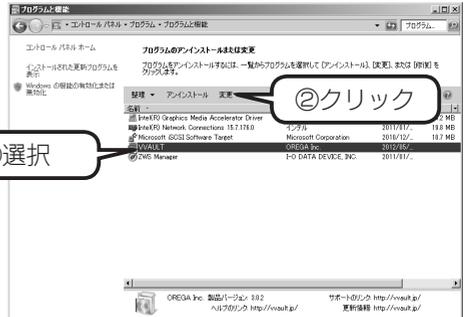


以上で、Windows ファイアウォールの設定変更は完了です。

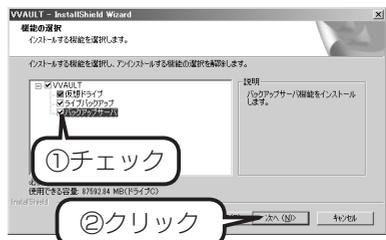
・バックアップサーバーを設定する

1 スタートメニューから、[コントロールパネル] → [プログラムのアンインストール] をクリックします。

2 プログラム一覧から [VVAULT] を選択し、[変更] をクリックします。



3 [バックアップサーバ] にチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。



このあと、画面の指示にしたがってインストールしてください。

その後、次ページへお進みください。

※本製品の再起動が必要になる場合があります。

4 VVAULT 管理画面を開き、[バックアップサーバ]タブをクリックします。



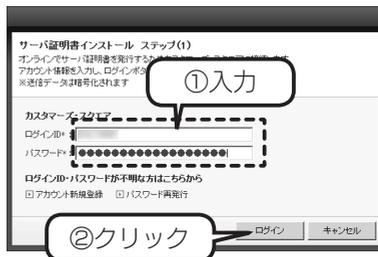
5 [サーバ証明書]タブをクリックし、[サーバ証明書インストール]をクリックします。  
※インターネットにアクセスできる環境が必要です。



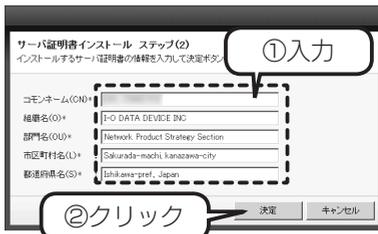
6 [次へ] ボタンをクリックします。



7 カスタマーズ・スクエアの[ログインID]、[パスワード]を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。



**8** サーバ証明書の情報を入力し、[決定] ボタンをクリックします。  
 ※すべての項目が必須項目となりますので、必ず入力してください。  
 →証明書のインストールをします。



コモンネーム	インターネットからアクセスできる、IP アドレスまたはホスト名を入力します。 (例：vvault1.iodata.jp など) バックアップクライアント側では、このコモンネームを接続先情報に使用します。
組織名	会社名を入力します。
部門名	部署名を入力します。
市区町村名	市区町村名を入力します。
都道府県名	都道府県名を入力します。

**ご注意**

- コモンネームは、バックアップクライアント側の設定において接続先サーバー名に使用します。ここで登録した以外のサーバー名ではバックアップサーバーにアクセスできませんのでご注意ください。

**9** [閉じる] をクリックします。  
 インストールされた証明書情報が表示されます。



**10** [サービス設定] タブをクリックし、バックアップ設定時に使用するパスワードを入力して、[適用] ボタンをクリックします。



**11** 画面上の [バックアップサーバ] をクリックして「ON」にします。



以上でバックアップサーバ側の設定は完了です。

# バックアップクライアント側を設定する

1 VVAULT 管理画面を開き、[ライブバックアップ] → [クラウドバックアップ] をクリックします。

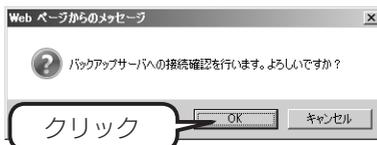


2 クラウドバックアップの設定を入力し、[接続テスト] ボタンをクリックします。

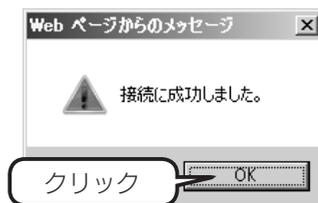


バックアップサーバURL	バックアップサーバ側で設定した共通ネームを入力します。
パスワード	バックアップサーバ側で設定したパスワードを入力します。

3 [OK] ボタンをクリックします。  
→接続テストを開始します。



4 「接続に成功しました」と表示されたら、設定情報が正しく入力されています。[OK] ボタンをクリックします。  
※失敗する場合は、再入力し接続テストをお試しください。



5 画面上の [適用] ボタンをクリックします。



6 画面上の [クラウドバックアップ] をクリックして [ON] にします。



以上で設定は完了です。

# 構成ドライブを取り外す場合

仮想ドライブとして組み込まれている構成ドライブを取り外す方法について説明します。

例として、VVAULT に以下の環境が設定されているものとし、この状態から USB 外付けドライブを取り外します。

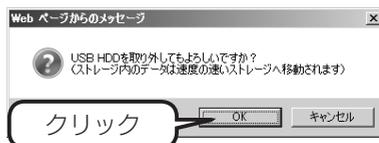
・仮想ドライブ (V:)

種類	構成ドライブ	ストレージ名
高速ドライブ	内蔵ドライブ	InternalRAID
中速ドライブ	USB 外付けドライブ	USB HDD

- 1 [仮想ドライブ] タブをクリックし、[ドライブ削除] ボタンをクリックします。  
[ストレージ取り外し] 画面が表示されますので、取り外すストレージを選択し、  
[決定] ボタンをクリックします。



- 2 [OK] ボタンをクリックします。  
→データの移動が始まります。



VVAULT は該当のドライブ内にデータが存在していないかどうかを確認します。取り外したいハードディスク内にデータが存在する場合、そのまま取り外してしまうとそのデータにアクセスできなくなってしまいますので、VVAULT では取り外すドライブ内のデータを他の構成ドライブに移動したのちに取り外します。

そのため取り外し処理に掛かる時間は、取り外し対象のハードディスク内にどれだけデータがあるかによって変動します。(ドライブ内に数テラバイトという巨大なデータが存在する場合、移動に数日かかる場合があります。)

以下の表示の間はデータの移動処理中ですので、絶対にケーブルを抜かないでください。



完了すると以下のように表示されます。



該当ハードディスクがリストから消えていることを確認します。

VVAULT (V:) をクリックすると、VVAULT の容量変化を確認できます。



以上で取り外し処理は完了です。

# 古い NAS からデータを移行する

古い NAS 内のデータを VVAULT の仮想ドライブに移行する手順について説明します。あらかじめ仮想ドライブが構成されている必要がありますので、まだ構成していない場合は、【VVAULT を使ってみる】(17 ページ)をご確認のうえ、仮想ドライブを構成してください。

以下の例は、「LANDISK-123456」という名前の LAN DISK 内の共有フォルダー「disk1」を仮想ドライブに取り込みます。

## NAS を仮想ドライブに組み入れる

**1** [仮想ドライブ] タブをクリックし、ドライブ追加ボタンをクリックします。

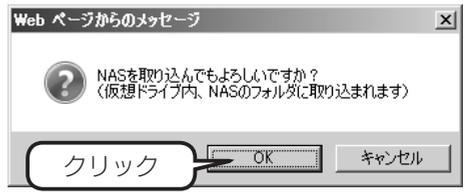


**2** NAS の接続情報を入力し、[決定] ボタンをクリックします。

種類	[低速ストレージ] を選択します。
ストレージ名	任意のわかりやすい名前を付けます。仮想ドライブ (V:) 上にストレージ名のフォルダを生成しますので、V: ドライブに存在しない名前を付けてください。この例では「¥¥landisk-123456¥disk1」と入力します。 ※ホスト名の部分は、IP アドレスでも入力できます。
管理対象パス	「¥¥ホスト名¥共有名」形式で組み込みたい NAS の共有フォルダを指定します。
コメント	必要に応じて入力します。
ネットワークストレージへの接続	アクセス先の共有フォルダにユーザー認証が必要な場合は、[ユーザー名とパスワードを使用する]にチェックし、[ユーザー名]と[パスワード]を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー名 IP アドレスまたはホスト名¥ユーザー名</li> <li>パスワード ユーザーパスワード</li> </ul>

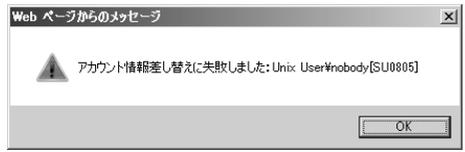


3 [OK] ボタンをクリックします。



## ご注意

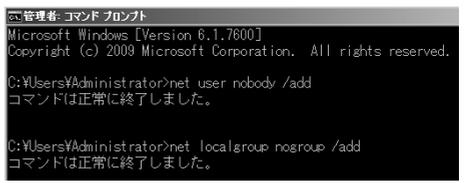
●取り込み中に以下のエラーメッセージが表示される場合



このエラーメッセージは組み込み先に同名のユーザーが存在しない場合に表示されます。(OSにより出荷時設定が異なります。)

この場合は、以下の手順でユーザーを追加し、管理画面から手動で取り込み操作を実施してください。

- ①コマンドプロンプトを起動し、  
以下のように入力します。  
net user nobody /add  
net localgroup nogroup /add



- ②管理画面から NAS を選択し、  
[取り込む] ボタンをクリックします。



**4** 取り込みが始まると、以下のように表示されます。  
フォルダー・ファイルの構成状況により所要時間は変動します。  
ここではNAS内のフォルダー・ファイル配置状況を取得し、仮想ドライブに登録しています。(実際のファイル移動は行っていません。)  
この時点で仮想ドライブ(V:)には「NAS」というフォルダーが作成されており、ユーザーはNASフォルダーにアクセスすることで、NAS内のデータにアクセスできるようになります。



完了すると以下の画面が表示されます。



つづいて、以下にお進みください。

## NASの取り外しをおこなう

方法は、【構成ドライブを取り外す場合】(35 ページ)をご覧ください。

取り外し処理を行うと、NAS内のすべてのデータを仮想ドライブに移動します。

NAS内に大量にデータがある場合、移動が完了するまで数日かかる場合があります。

なお、その間も通常通り仮想ドライブ(V:)からすべてのファイルにアクセスできます。

# アップデートする

VVAULT の新しいバージョンがリリースされた場合のアップデート方法について説明します。VVAULT カスタマーズ・スクエアへ登録すると、新しいバージョンのリリースの度に案内メールが届きます。新しいバージョンはバグ修正だけでなく、機能拡張が含まれている場合がありますので、内容をご確認のうえ適用ください。

## ご注意

- アップデート適用後、NAS の再起動が必要な場合がありますので、影響の少ない時間帯に実行してください。

**1** カスタマーズ・スクエアから新しいバージョンの実行ファイルを入手します。32bit 版と 64bit 版がありますので、システムに合った方を入手してください。(VVAULT Professional OEM の場合は、64bit 版をご利用ください。)

**2** 対象機上に新しいバージョンの実行ファイルをコピーし、実行します。

**3** [次へ] ボタンをクリックします。  
→アップデートが始まります。



**4** 右の画面が表示された場合は、[インストール] ボタンをクリックします。



**5** インストールが完了後、NAS の再起動を求められる場合があります。この場合は NAS を再起動してください。

以上で、アップデートは完了です。

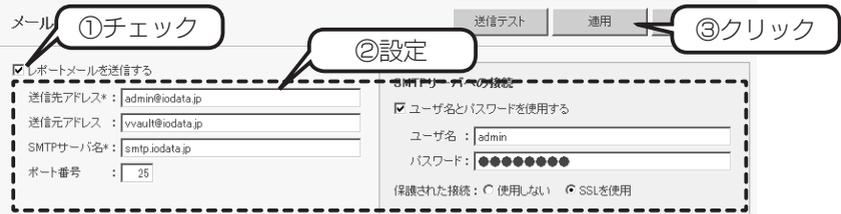
# メール設定をする

VVAULT の動作において、警告やエラーが発生した場合にメールで通知する機能があります。ここではメールの設定方法について説明します。

1 [システム設定] タブをクリックし、[レポートメール] をクリックします。



2 [レポートメールを送信する] にチェックし、必要な項目を入力して、[適用] ボタンをクリックします。  
送られるメールについては、【送信メール一覧】(46 ページ) をご覧ください。



送信先アドレス	メール送信先のメールアドレスを設定します。 複数の送信先を指定するには「; (セミコロン)」で区切って入力します。
送信元アドレス	メールの発信者を指定します。未入力の場合は送信先アドレスが利用されます。
SMTP サーバー名	メール送信サーバー (SMTP サーバー) を指定します。
ポート番号	メール送信に利用するポート番号を入力します。

#### ▼ SMTP サーバーが認証を必要とする場合

ユーザ名	SMTP サーバーとの認証に使用するユーザ名を入力します。
パスワード	SMTP サーバーとの認証に使用するパスワードを入力します。
保護された接続	SMTP サーバーとの通信に SSL 通信が必要な場合は「SSL を使用」を選択します。

以上で、メール設定は完了です。

# メッセージ一覧

区分	メッセージ	原因および対応方法	エラーコード
ログイン	ライセンスが失効しています	登録されているライセンスが無効な状態です。有効なライセンスを再登録してください	-
	仮想ドライブサービスにアクセスできません サービスが開始しているか確認してください	仮想ドライブサービスが正常に起動されていない状態です。Windowsのサービス一覧より、VVAULTVirtualDriveService を開始/再起動してください	-
	ログインエラー アカウント名とパスワードを再度確認してください	認証に失敗したため、ログインできませんでした。インストールマシンにて管理者権限を持つアカウント名とそのパスワードを入力してください	-
	ログインしてください	接続がタイムアウトしています。再ログインしてください	-
ストレージ	管理対象パスを入力してください	管理パスが入力のため、追加できませんでした。管理パスを入力してください	-
	ストレージ名を入力してください	ストレージ名が入力のため、追加できませんでした。ストレージ名を入力してください	-
	ストレージ名の終端にピリオドを使用することは出来ません	ストレージ名の最後がピリオドのため、追加できませんでした。ストレージ名を変更してください	BU1208 BU2206 SU0608 SU0706
	これらの文字をストレージ名に使用することは出来ません：(使用不可能な文字セット)	ストレージ名として使用できない文字 (< > ! : * ? \ / など) が含まれているため、追加できませんでした。ストレージ名を変更してください	BU1207 BU2204 SU0607 SU0704
	コメントに 256 文字以上入力されています	コメントの文字数が制限を超えているため、追加できませんでした。256 文字以内で入力してください	-
	ユーザ名を入力してください	ネットワークストレージへの接続でユーザ名とパスワードを使用するがチェックされている状態で、ユーザ名が入力のため、追加できませんでした。ユーザ名を入力してください	-
	認証に失敗 (アクセス拒否など) しました	指定されたパスへの接続に失敗したか、パスに対してフルコントロール権限がないため、追加できませんでした。接続情報または権限を確認してください	BU1203 SU0603
	上位パスが既に登録されています	指定されたパスに登録済みのストレージの管理対象パスが含まれているため、追加できませんでした。管理対象パスに別のパスを指定してください	BU1202 SU0602
	下位パスが既に登録されています	指定されたパスが登録済みのストレージの管理対象パスに含まれているため、追加できませんでした。管理対象パスに別のパスを指定してください	BU1202 SU0602
	上位パスが既にバックアップストレージに登録されています【パス情報】	指定されたパスがバックアップストレージとして登録済みの管理対象パスが含まれるため、追加できませんでした。管理対象パスに別のパスを指定してください	SU0615
	下位パスが既にバックアップストレージに登録されています【パス情報】	指定されたパスがバックアップストレージとして登録済みの管理対象パスに含まれるため、追加できませんでした。管理対象パスに別のパスを指定してください	SU0614
	仮想ドライブ下に同名ファイルが存在するため、取り込みを行うことができません。ストレージ名またはファイル名を変更してから取り込みを行ってください。	仮想ドライブルート直下にストレージ名と同名のファイルが存在するため、取り込みできませんでした。既存のファイル名を変更するか、ストレージ名を変更してください	SU0807
	バックアップストレージに同一パスが既に登録されています【パス情報】	指定されたパスはバックアップストレージとして登録済みのため、追加できませんでした。管理対象パスに別のパスを指定してください	SU0613
	管理対象パスにアクセスできません	指定されたフォルダにアクセスできない状態のため、追加できませんでした。ストレージの接続を確認してください	BU1201 SU0601
	管理対象パスにコンテンツが存在するためバックアップストレージとして追加できません	指定されたフォルダが空でないため、追加できませんでした。空のフォルダを指定してください	BU1214
	管理対象パスにシステムフォルダを指定することは出来ません	指定されたパスにシステムフォルダ (C:\Windows など) のパスが含まれているため、追加できませんでした。管理対象パスを変更してください	BU1210 SU0610
管理対象パスに仮想ドライブを指定することは出来ません	管理対象パスが仮想ドライブ上にあるため、追加できませんでした。管理対象パスを変更してください	BU1209 SU0609	
管理対象パスのフォルダが存在しません	指定されたフォルダが存在しないため、追加できませんでした。管理対象パスに存在するフォルダを指定してください	BU1211 SU0611	
管理対象パスを相対パスで指定することは出来ません：(指定された相対パスのフルパス)	指定されたパスが相対パス (.\\ool\bar、..\\ool\bar など) のため、追加できませんでした。管理対象パスにフルパス (D:.\ool\bar など) を指定してください	BU1212 SU0612	
現在のライセンスではこれ以上ストレージを追加することは出来ません	ストレージ数制限により、ストレージを追加できませんでした。ライセンスを確認してください	BU1204 SU0604	

【失敗原因の詳細】	表示されているエラーのため、追加できませんでした。原因を確認してください	BU1206 BU2203 SU0606 SU0703 SU1200
ライセンス制限によりこの処理は実行できません	ライセンスが失効しているか操作が制限されているため、追加できませんでした。ライセンスを確認してください	BU1205
全てのストレージに規定の空き容量がありません	指定されたバスの既存データが仮想ドライブ構成ストレージの空き容量を超えるため、追加できませんでした。仮想ドライブのパワァーサイズを変更するか、十分空のあるストレージを追加してください	BU1202 SU0602
同一ストレージ名が既に登録されています	登録済みのストレージと同名のストレージが存在するため、追加できませんでした。別のストレージ名を入力してください	BU1202 BU2202 SU0602 SU0702
同一バスが既に登録されています	指定されたバスは登録済みのため、追加できませんでした。別のバスを登録してください	BU1202 SU0602
取り込み先フォルダの作成に失敗しました：【エラー原因】	仮想ドライブルート直下にストレージ名と同名のファイルが存在するため、取り込みできませんでした。既存のファイル名を変更するか、ストレージ名を変更してください	SU0801
アカウント情報差し替えに失敗しました	ネットワークストレージに存在するユーザがシステムに存在しないため、取り込みで失敗しました。同名のユーザアカウントをシステムに作成してください	SU0805
このストレージ内のデータを退避するための空き容量がありません	仮想ドライブの構成ストレージに取り外しに必要となる空き容量がないため、取り外しできませんでした。空き容量のあるストレージを追加してください	BU1601 SU0901
このストレージを取り外すにはデータの退避先となるストレージが最低1つが必要です	他のストレージが1つもない状態のため、取り外しできませんでした。十分空き容量のあるストレージを追加し取り外しを実行するか、仮想ドライブをアンマウント後に強制取り外ししてください	BU1605 SU0905
このストレージを取り外すには仮想ドライブのアンマウントが必要です	他のストレージが1つもなく、仮想ドライブがマウントされている状態のため、取り外しできませんでした。仮想ドライブをアンマウント後に強制取り外ししてください	SU0906
アクセス失敗	ストレージに接続できない状態のため取り外しできませんでした。接続の問題を解消してください	SU0900 BU1600
テストに失敗しました 【失敗原因の詳細】	表示されているエラーのため、テストできませんでした。原因を確認してください	BU1500
指定されたストレージは存在しません	指定されたストレージが存在していない状態です。更新ボタンをクリックし、最新の状態を確認してください	BU1301 BU1501 BU1604 SU0501 SU0701 SU0904 SU1201
このストレージはアクセス可能な状態ではありません	ストレージに接続できない状態のため取り外しできませんでした。接続の問題を解消してください	BU1602 SU0802
ストレージに接続できません	ストレージに接続できない状態です。接続の問題を解消してください	-
(ストレージ名) バックアップストレージに接続できません	ストレージにアクセスできない状態です。ストレージの接続を確認してください	-
バックアップに接続できません	バックアップサービスに接続できないため、追加できませんでした。Windows サービス一覧より、WVaultBackupService の状態や、ファイヤーウォール、セキュリティソフトなどのセキュリティレベルを確認してください	BU1250 BU1650 BU2550 BU2750
【ボリュームラベル】とデータを同期中・・・	取り込みを実行している状態です。処理が終わるまでお待ちください	-
【ボリュームラベル】とデータを同期中にエラーが発生しました	エラーのため、ストレージの取り込みに失敗しました。エラーログより問題を解決してください	-
ストレージを取り外し中・・・	取り外しを実行している状態です。処理が終わるまでお待ちください	-
ストレージを取り外し中にエラーが発生しました	ストレージの取り外しに失敗しました。エラーログより問題を解決してください	-
【ストレージ名】バックアップストレージを取り外し中...	取り外しを実行している状態です。処理が終わるまでお待ちください	-
【ストレージ名】バックアップストレージを取り外し中にエラーが発生しました	ストレージの取り外しに失敗しました。エラーログより問題を解決してください	-
このストレージは別の処理を実行中です	指定されたストレージが別の処理を実行しているため、取り外しできませんでした。処理完了後、実行してください	SU0803 SU0903
システムリカバリが実行中です	システムリカバリが実行中のため、操作を実行できませんでした。処理が終わるまでお待ちください	BU1607 SU0806 SU0907
ストレージの使用容量が制限値を越えました	ストレージの物理使用量が80%を超えています。他のストレージの空き容量を確認し、不足している場合はストレージを追加し、ティアリングによって状態が解消されるまでお待ちください	-
ストレージを追加してください	指定の階層にストレージがない状態です。必要に応じてストレージを追加してください	-
同期中にストレージ名を変更することは出来ません	ストレージが処理中のため、ストレージ名を変更できませんでした。処理が終わるまでお待ちください	SU0705

仮想ドライブ / バックアップドライブ	開始と終了に同じ時間を設定できません	指定された時間の開始と終了が同じため、保存できませんでした。開始と終了の時間帯を正しく指定してください	-
	このドライブは稼働中です；ドライブレター	既に仮想ドライブがマウントされていたため、マウントできませんでした。マウントの状態を確認してください	SU0101
	このドライブレターはすでに使用されています【ドライブレター】	指定のドライブレターは有効でないためマウントできませんでした。別のドライブレターを選択してください	LI0601 SU0201
	ストレージが追加されていません	ストレージが1つも追加されていないため、マウントできませんでした。ストレージを追加してください	LI0612 SU0212
	ドライブエラー【詳細】	仮想ドライブの状態に問題があるため、マウントできませんでした。問題が解消されない場合は OS を再起動してください	LI0602 SU0202
	バックアップサービスが停止しています	バックアップサービスが停止している状態です。Windows サービス一覧より、VAULTBackupServiceを開始してください	-
	バックアップストレージが追加されていませんバックアップストレージを追加してください	バックアップストレージが1つも追加されていないため、バックアップを ON にできませんでした。ストレージを追加してください	BU2551
	バックアップするための容量が足りませんバックアップストレージを追加してください	バックアップに必要な容量が不足しているため、バックアップを ON にできませんでした。十分な空き容量のあるストレージを追加してください	BU2552
ライブラリ	バックアップ機能がインストールされていません	バックアップ機能がインストールされていないため、表示できませんでした。状態を確認してください	LR0051 LR0151 LR0251 LR0351 LR0451 LR0551 LR0651 LR0851 LR0951 LR1051 LR1151 LR1251
システムリカバリ	システムリカバリを実行することはできません	現在の状態がシステムリカバリモードでないため、システムリカバリを実行できませんでした。状態を確認してください	BU1751
	ここにはバックアップデータが存在しません	バックアップデータが1件も存在しないため、システムリカバリを実行できませんでした。インストーラにて他のバックアップデータを選択するか、新規インストールを選択してください	BU1701
	既にシステムリカバリを実施しています	システムリカバリが既に実行されているため、実行できませんでした。状態を確認ください	BU1702
ライセンス	ログインIDを入力してください	ログインIDが未入力のため、カスタマーズ・スクエアにログインできませんでした。ログインIDを入力してください	-
	パスワードを入力してください	パスワードが未入力のため、カスタマーズ・スクエアにログインできませんでした。パスワードを入力してください	-
	メールアドレスとパスワードを正しく入力してください	認証に失敗したため、カスタマーズ・スクエアにログインできませんでした。ログインIDとパスワードを確認してください	OL1001 OL1002
	ログイン情報が取得できませんでした 恐れ入りますがこのウィンドウを閉じてもう一度始めからやり直してください	カスタマーズ・スクエアへの接続がタイムアウトしているため、処理を実行できませんでした。登録を初めからやり直してください	-
	ライセンスコードを入力してください	ライセンスコードが未入力のため、登録できませんでした。ライセンスコードを入力してください	-
	このライセンスはお使いのマシンの OS に対応しておりません	実行されている OS が選択されたライセンスによって許可している OS と異なるため、登録できませんでした。適切なライセンスを選択してください	OL3005
	このライセンスは既に失効しています	ライセンスの有効期限が切れているか、ライセンスに含まれる識別情報が実行環境と異なるため、登録できませんでした。ライセンスファイルを確認してください	LI0301
	ファイルにライセンス情報が含まれていませんアクティベーションできませんでした	OEM ライセンス発行に必要な情報が取得できないため、登録することができませんでした。インストールマシンを確認してください	OL3920 OL3921 OL3922 OL3923
	ライセンスが失効していますライセンス登録ボタンより有効なライセンスファイルをご登録ください	ライセンス失効している状態です。適切なライセンスを登録してください	-
	ライセンスコード【ライセンスコード】は使用期限が切れています	ライセンスコードの使用期限が切れているため、登録できませんでした。別のライセンスコードを登録してください	OL50010 OL50020
	ライセンスコードはアクティベーション可能回数が0のため使用できません	アクティベーションの上限値を超えたため、登録できませんでした。再アクティベーションは年間5回まで可能です。アクティベーション可能回数を確認してください	OL41027
	ライセンスコードを正しく入力してください	不正なライセンスコードが入力されたため、登録できませんでした。ライセンスコードを確認してください	OL41031 OL41024 OL41026
	入力されたライセンスコードはすでに使用されています	ライセンスコードが使用済みのため、登録することができませんでした。別のライセンスコードを登録してください	OL41027
	入力されたライセンスコードは無効です ライセンスファイルを選択してください	正しいライセンスコードを入力してください ライセンスファイルが選択されていないため、登録できませんでした。ライセンスファイルを選択後、時刻してください	OL41028 -

	ライセンスを選択してください	ライセンスが選択されていないため、登録できませんでした。ライセンスを選択してください	-
	現在のライセンスが無効化されているため、更新ライセンスを登録できません。 お心当たりのない場合は、ライセンス購入元のサポート窓口にお問い合わせください。	カスタマーズ・スクエアにてライセンスが無効に設定されているため、ライセンスを登録できませんでした。ライセンスを確認してください	OL50027
	ライセンスが失効しています	ライセンスの有効期限が切れているか、ライセンスに含まれる識別情報が実行環境と異なっている状態です。正しいライセンスを登録してください。	-
	ライセンス制約違反です	現在の利用状況がライセンス違反となっているため、追加できません。適切なライセンスを登録してください	BU12LI BU16LI BU17LI BU22LI BU25LI BU27LI LR05LI LR06LI LR08LI LR10LI ML02LI SU01LI SU02LI SU06LI SU07LI SU09LI
メール	SMTP サーバ名を入力してください	SMTP サーバ名が未入力のため、テストできませんでした。SMTP サーバ名を入力してください	-
	送信先アドレスを入力してください	送信先アドレスが未入力のため、テストできませんでした。送信先アドレスを入力してください	-
	メールアドレスの形式が不正です	メールアドレスの形式が不正のため、テストできませんでした。メールアドレスを確認してください	ML0301
	ユーザ名を入力してください	「ユーザ名とパスワードを使用する」が選択されている状態で、ユーザ名が未入力のため、設定できませんでした。ユーザ名を入力してください	-
	パスワードを入力してください	「ユーザ名とパスワードを使用する」が選択されている状態で、パスワードが未入力のため、設定できませんでした。パスワードを設定してください	-
	[SMTP エラー]	SMTP サーバへの送信に問題があるため、送信できませんでした。SMTP サーバを確認ください	ML0302
	[SMTP 接続エラー]	SMTP サーバとの接続に問題があるため、送信できませんでした。SMTP サーバへの接続を確認ください	ML0303
	メールを送信できませんでした ライセンス制約違反です	現在の利用状況がライセンス違反となっているため、追加できませんでした。適切なライセンスを登録してください	ML03LI
警告・障害情報（警告・障害）	現在発生している処理エラー、システム障害はありません	警告・障害が発生していない状態です	-
	復元を保留しているファイルがあります	復元を保留している状態です	-
	yyyy/MM/dd HH:mm:ss【ストレージ名】...【ボリュームラベル】とデータを同期中にエラーが発生しました	エラーのため、ストレージの取り込みに失敗しました。エラーログより問題を解決し、実行してください	-
	yyyy/MM/dd HH:mm:ss【ストレージ名】... ストレージに接続できません	ストレージに接続できない状態です。接続の問題を解消する必要があります	-
	yyyy/MM/dd HH:mm:ss【ストレージ名】... ストレージの使用容量が制限値を超えました	ストレージの物理使用量が80%を超えています。他のストレージの空き容量を確認し、不足している場合はストレージを追加し、ティアリングによって状態が解消されるのをお待ちください	-
	yyyy/MM/dd HH:mm:ss【ストレージ名】... ストレージを取り外し中にエラーが発生しました	エラーのため、ストレージの取り外しに失敗しました。エラーログより問題を解決してください	-
	不整合ファイルがあります	不整合ファイルが検出された状態です	-
その他	[システムエラー]	予期しないエラーです。エラーが解消されない場合は、OS再起動を実行してください	-

# 送信メール一覧

送信タイミング	状態	メール送信内容
ストレージ取り込み完了時	成功	件名： WVAULT 取り込み処理完了メール（マシン名）[正常] 本文： ストレージ「〇〇〇」の取り込み処理が正常に終了しました 取り込み開始時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 取り込み完了時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS
	失敗	件名： WVAULT 取り込み処理完了メール（マシン名）[エラー] 本文： ストレージ「〇〇〇」の取り込み処理でエラーが発生しました 取り込み開始時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 取り込み完了時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 詳細は管理画面より処理エラーを参照してください
ストレージ取り外し完了時	成功	件名： WVAULT 取り外し処理完了メール（マシン名）[正常] 本文： ストレージ「〇〇〇」の取り外し処理が正常に終了しました 取り外し開始時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 取り外し完了時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS
	失敗	件名： WVAULT 取り外し処理完了メール（マシン名）[エラー] 本文： ストレージ「〇〇〇」の取り外し処理でエラーが発生しました 取り外し開始時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 取り外し完了時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 詳細は管理画面より処理エラーを参照してください
バックアップストレージ取り外し完了時	成功	件名： WVAULT バックアップストレージ取り外し処理完了メール（マシン名）[正常] 本文： ストレージ「〇〇〇」の取り外し処理が正常に終了しました バックアップストレージ取り外し開始時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS バックアップストレージ取り外し完了時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS
	失敗	件名： WVAULT バックアップストレージ取り外し処理完了メール（マシン名）[エラー] 本文： ストレージ「〇〇〇」の取り外し処理でエラーが発生しました 取り外し開始時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 取り外し完了時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 詳細は管理画面より処理エラーを参照してください
ストレージ接続エラー時	障害発生	件名： WVAULT システム障害報告メール（マシン名） 本文： システムで障害が見つかりました 障害発生時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 障害内容：ストレージ「〇〇〇」に接続できませんでした
	障害回復	件名： WVAULT システム障害解決メール（マシン名） 本文： システムで発生していた問題が解決されました 障害解決時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 内容：ストレージ「〇〇〇」の接続問題が解決しました
バックアップストレージ接続エラー時	障害発生	件名： WVAULT システム障害報告メール（マシン名） 本文： システムで障害が見つかりました 障害発生時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 障害内容：ストレージ「〇〇〇」に接続できませんでした

	障害回復	件名： WAULT システム障害解決メール (マシン名) 本文： システムで発生していた問題が解決されました 障害解決時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 内容：ストレージ「〇〇〇」の接続問題が解決しました
ストレージ容量エラー時	障害発生	件名： WAULT システム障害報告メール (マシン名) 本文： システムで障害が見つかりました 障害発生時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 障害内容：ストレージ「〇〇〇」の空き容量が推奨する制限値を超えました
	障害回復	件名： WAULT システム障害解決メール (マシン名) 本文： システムで発生していた問題が解決されました 障害解決時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 内容：ストレージ「〇〇〇」の空き容量が確保されました
バックアップドライブ容量エラー時	障害発生	件名： WAULT システム障害報告メール (マシン名) 本文： システムで障害が見つかりました 障害発生時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 障害内容：バックアップドライブの空き容量が推奨する制限値を超えました
	障害回復	件名： WAULT システム障害解決メール (マシン名) 本文： システムで発生していた問題が解決されました 障害解決時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 内容：バックアップドライブの空き容量が確保されました
バックアップサービス接続失敗時	障害発生	件名： WAULT システム障害報告メール (マシン名) 本文： システムで障害が見つかりました 障害発生時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 障害内容：バックアップサービスに接続できませんでした
	障害回復	件名： WAULT システム障害解決メール (マシン名) 本文： システムで発生していた問題が解決されました 障害解決時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 内容：バックアップサービスの接続問題が解決しました
データベース障害検出時	障害発生	件名： WAULT システム障害報告メール (マシン名) 本文： システムで障害が見つかりました 障害発生時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 障害内容：データベースに接続できませんでした
	障害回復	件名： WAULT システム障害解決メール (マシン名) 本文： システムで発生していた問題が解決されました 障害解決時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 内容：データベースの接続問題が解決しました
不整合ファイル検出時	障害発生	件名： WAULT システム障害報告メール (マシン名) 本文： システムで障害が見つかりました 障害発生時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 障害内容：不整合ファイルを検出しました

ライブリカバリ 保留 ファイル検出時	障害発生	件名： WAULT システム障害報告メール（マシン名） 本文： システムで障害が見つかりました 障害発生時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 障害内容：保留ファイルを検出しました
システムリカバリ完了 時	完了	件名： WAULT システムリカバリ処理完了メール（マシン名） [ 正常 ] 本文： システムリカバリ処理が正常に完了しました システムリカバリ開始時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS システムリカバリ完了時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS
システムリカバリ容量 不足時	障害発生	件名： WAULT システム障害報告メール（マシン名） 本文： システムで障害が見つかりました 障害発生時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 障害内容：システムリカバリ処理にてストレージの空き容量が不足しました
	障害回復	件名： WAULT システム障害解決メール（マシン名） 本文： システムで発生していた問題が解決されました 障害解決時刻：YYYY/MM/DD HH24:MI:SS 内容：システムリカバリ処理にてストレージの空き容量が確保されました

# VVAULT ソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェアの使用者（以下、「甲」といいます）は、甲がインストール済製品の電源を投入することにより、株式会社オレガ（以下、「乙」といいます）が使用許諾権を有するプログラム（以下、「本件プログラム」といいます）及び運用マニュアル等の関連資料（以下、「本件資料」といいます。本件プログラムと本件資料を合わせて「本件ソフトウェア」といいます。）についての使用許諾契約を締結するものとします。

## 第1条（使用権の範囲）

乙は、甲に対して、乙が用意する本件プログラム稼働のための単一のコンピュータシステム（以下、「本件システム」といいます）の下の、及び日本国内で使用することを条件として、本件ソフトウェアの非独占的使用権を許諾します。

## 第2条（確認事項）

本契約の締結にあたり、甲は、乙又は乙の販売代理店等（以下、「ライセンスサー」といいます）から本件プログラムについての機能上の説明を、口頭、資料、実演等により十分受けたことを確認します。

## 第3条（提供物件）

乙は、甲に対して本件ソフトウェアを、あらゆる種類の保証無く現状のまま提供します。また、乙は商品性及び特定目的への適合性に関する暗示的保証を含めて、明示的及び暗示的は一切の保証を行いません。

## 第4条（本契約の有効期間）

本契約は、本契約所定の条件に従い本契約が終了するまで有効に存続します。

## 第5条（対価）

甲は乙に対して、本契約第1条の使用権許諾の対価（以下、「本対価」といいます）を、別途甲乙、若しくは甲がライセンスサー側で定める金額及び条件によって支払うものとします。

2. 前項の本対価の支払い条件には、ライセンスサー及びリース会社等の本契約当事者以外の者（以下、「第三者」といいます）を経由する支払を含みます。但し、その場合、乙が本対価を受領した時をもって支払いが完了したものとします。

3. 本対価は、本契約に定めがある場合を除き、いかなる理由によっても返還されないものとします。

## 第6条（保守サービス）

乙は甲に対して、乙が別途用意するカスタマーサポートサイト（以下、「サポートサイト」といいます）を通じて、本件ソフトウェアの不具合の補修や使用方法の改良などについての情報を提供します。但し、サポートサイトの提供は本件ソフトウェアの不具合の修正を保証するものではありません。

2. 甲はサポートサイトを通じて入手した最新の本件ソフトウェアを、本契約に基づいて本契約と同じ条件で使用することができます。この場合、古い本件ソフトウェアについての使用権は終了し、甲は第14条に定める処置をとらなければならないとします。

## 第7条（著作権）

乙は本件ソフトウェアの著作権者であり、本件ソフトウェアが第三者の著作権等を侵害していないことを、甲に対して保証します。

2. 本件プログラムは、本件ソフトウェアの配賦パッケージに含まれるGNU LESSER General Public License（LGPL）等のオープンソースソフトウェア（以下、「OSS」といいます）と連動して動作するものです。配布されたOSSの著作権及び使用許諾については、配賦製品内の各OSSの著作権表記をご確認下さい。

## 第8条（免責）

乙による故障または重大過失の場合を除き、本件ソフトウェアの使用に起因する一切の損害について、乙は一切の責任を負いません。

2. 本件ソフトウェアを使用する際、用いるデータのバックアップを確保する責任は甲にあるものとし、本件ソフトウェアの使用に起因するデータの喪失について、乙は一切の責任を負いません。

## 第9条（禁止事項）

甲は、乙の書面による承諾を得ない限り本件ソフトウェアの全部または一部について、次の行為をしてはなりません。

- ①第三者に本件ソフトウェアを譲渡すること
- ②本契約に基づく使用許諾権を譲渡すること
- ③有償、無償を問わず第三者に本件ソフトウェアを貸与すること、又は使用させること
- ④本件ソフトウェアのアイデア、コンセプト、技術上の機密を第三者に開示すること
- ⑤第10条に定める場合を除き、本件ソフトウェアを複製、変更、翻案等すること
- ⑥本件ソフトウェアに付された乙が著作権者である旨の表示を廃棄、消去等すること
- ⑦本件ソフトウェアをリバースエンジニアリングすること
- ⑧本件ソフトウェアを第三者に担保として提供すること

## 第10条（本件ソフトウェアの複製）

甲は、本件プログラムについて、本件ソフトウェアの破損等に備えるために保有する目的に限り、機械が読み取れる形で本件ソフトウェアの全部または一部を1つに限り複製することができます。

2. 前項の複製物は、本件システム以外の別のコンピュータシステムで追加的に使用する場合には、新たに本件ソフトウェアについての別の使用許諾契約を締結しなければならないとします。

3. 本契約が終了した場合、甲は、本条第1項の複製物についても第12条に定める処置をとらなければならないとします。

## 第11条（運用責任）

甲は、本件プログラム等の使用につき、下記の事項を含め、一切の機密管理の責任を負うものとします。

- ①本件プログラムを正常に稼働させるための機械の維持管理
- ②本件プログラム及び機械の不稼働、不完全稼働にそなえた代替処理方法、バックアップ対策の確立並びに対応要員の確保

## 第12条（契約終了後の措置）

本契約が終了した場合、終了原因のいかんを問わず、甲は、本契約終了の日から30日以内に本件ソフトウェア及びその複製物を破棄しなければならないとします。

2. 本契約終了の終了原因及び終了時期のいかんを問わず、甲は、本件ソフトウェアの使用料の返還を求めるとはできません。

## 第13条（機密保持）

乙は、本契約の締結に関連して知り得た甲の技術、財務、生産、営業等の機密を保持する義務を負います。

2. 甲は、本件ソフトウェアについてのアイデア、ノウハウ等の技術的機密について保持する義務を負います。

3. 前二項の規定は、本契約の終了後も有効に存続します。

## 第14条（権利義務の譲渡禁止）

甲及び乙は、互いに相手方の事前の書面による同意なくして、本契約の地位を第三者に承継させ、あるいは本契約から生じる権利義務の全部又は一部を第三者に譲渡し若しくは引き受けさせ又は担保に供してはなりません。

## 第15条（解約）

甲及び乙は、相手方が次の各号の一つにても該当した場合、何らの催告を要せず本契約を将来に向かって解除することができます。

- ①本契約のいずれかの条項に違反し、相当期間内に改善されない場合
- ②支払いの停止又は仮差押さえ、差押さえ、競売、破産、民事再生手続又は会社更生手続、会社整理開始、特別清算開始の申し立てがあったとき

## 第16条（管轄裁判所）

本契約に関する訴訟については東京地方裁判所をもって専属的合意管轄裁判所とします。

## 第17条（一般条項）

いずれの当事者も、天災地変、労働争議、暴動、戦争行為、法律の制定・改廃、その他その合理的支配を越える事由により本契約上の義務の履行が遅滞あるいは不可能となった場合、それにより相手方に生じた損害については免責されます。

2. 本契約は、本件ソフトウェアの使用権の許諾に関する甲乙間の唯一の合意を構成します。本契約の締結の前後を問わず、甲乙間で本契約と異なる合意が為された場合においても、当該合意が本契約書を明確に特化した書面に記されていない限り、当該合意は何ら効力をもたないものとします。

3. 本契約に定めのない事項及び本契約の各条項に疑義を生じた事項については、甲、乙信義誠実の原則に基づいて協議し、円満に解決するものとします。

以上

# アフターサービス

VVAULT をご利用のうえでご不明な点がある場合は、VVAULT インストール時に合わせてインストールされる製品マニュアルをご参照ください。

〔スタート〕 → 〔すべてのプログラム〕 → 〔VVAULT〕 → 〔製品マニュアル〕

## お問い合わせについて

ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

### 必ず以下の内容をご確認ください



弊社サポートページの Q&A を参照

➔ <http://www.iodata.jp/support/>



最新のドライバソフト等をダウンロード

➔ <http://www.iodata.jp/lib/>



それでも解決できない場合は、サポートセンターへ

電話：050-3116-3025

※受付時間 9：00～17：00 月～金曜日（祝祭日をのぞく）

FAX：076-260-3360

インターネット：<http://www.iodata.jp/support/>

< ご用意いただく情報 > 製品名 / パソコンの型番 ・ OS

#### 【ご注意】

- 1) VVAULT は株式会社オレガの著作物です。本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。  
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
  - 2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
  - 3) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
  - 4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
  - 5) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
- I-O DATA は、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
  - VVAULT は、株式会社オレガの登録商標です。
  - Microsoft、Windows、Windows Vista および Windows Server は、米国または他国における Microsoft Corporation の登録商標です。
  - その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

デジタルライフの夢を拡げる

株式会社 **アイ・オー・データ機器**

本社サポートセンター：〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地  
ホームページ：<http://www.iodata.jp/support/>